

第43図 6類土器実測図

6類 貝殻腹縁刺突文土器

施文は口縁部に限り、二枚貝の腹縁刺突を連続して縱方向に周回して施すもので、胴部への沈線文等の施文は行わない。

137,138の口縁部はやや張り出し、その下位に浅い刻みを加える。139は上下で刺突角度を違えたとみられ、形状の異なる貝殻刺突文が残され、さらに部位でその間隔を違えるアクセントをつけている。同じ手法が140にみられる。141は直線的に刻まれる。142も同様の手法で施文される。143は緩やかに内湾する形状で、口縁部は殆い平坦面をなす。口縁部の刻みは左回りに施され、内面

は工具で横方向に削られる。144の施文帯は若干肥厚し、丁寧に撫でられた器面に間隔を置いて二枚貝を浅く刻む。145が酷似する。146は緩やかな波状口縁で、口縁部施文帯に二枚貝を左から右に深く刺突する。内面は波頂部を境に“八”状に条痕によって仕上げられている。

第15表 6類土器観察表

発見No	回No	取上げ	大きさ	大きさ	大きさ	大きさ	大きさ	大きさ	大きさ
	137	一品	0.000	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	0.0	H
	138	一品	0.000	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	0.0	G
	139	6075	22.753	78.232	144.024	0.000	Ⅲ	0.0	G
	140	16693	17.940	83.626	142.852	0.000	Ⅲ	0.0	G
	141	一品	0.000	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	0.0	G
	142	15706	18.357	79.718	143.294	0.000	Ⅲ	0.0	G
	143	5901	24.661	75.635	144.434	0.000	Ⅲ	0.0	G
	144	19440	18.797	89.725	143.022	0.000	Ⅲ	0.0	G
	145	一品	0.000	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	0.0	G
	146	14204	21.916	78.789	143.716	0.000	Ⅲ	0.0	H

43

7類 岩崎上層式土器

口縁部に貝殻腹縁刺突線文を連続して刺突し、頭部から胴部に沈線文を持つ土器群をA類とした。口縁部の貝殻腹縁刺突線文が消失し、頭部から胴部に沈線文を持つ土器群をB類とした。なお、沈線文の本数によりさらに分類した。

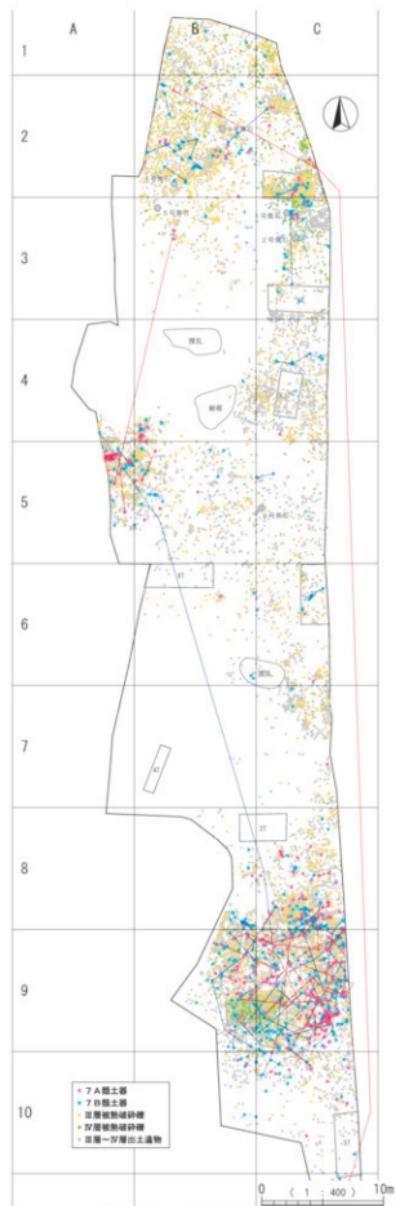
7A類2本並行沈線文

口縁部に二枚貝の腹縁部を連続して刺突し、その下位に2本の沈線文を施した土器群である。

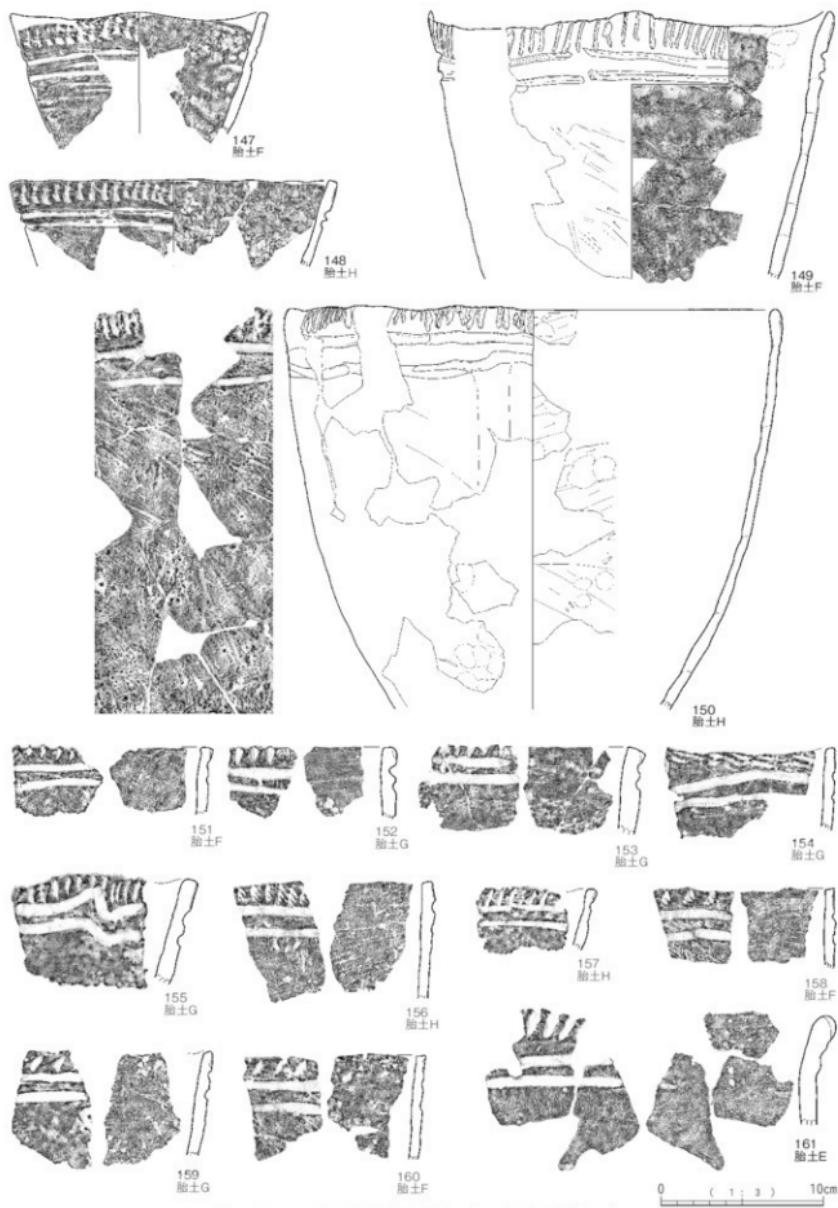
147は復元口径15.8cmの小型鉢形土器で、緩やかな波状口縁をなす。器壁の薄い硬質土器で、口縁部施文帯は若干肥厚する傾向で二枚貝を左から右方向に押し引く。148の口縁部は二枚貝を用いて右回りに施文し、器壁は薄く、緩やかな波状口縁をなす。149は端部がL字状に屈曲する工具で連続して口縁部を刺突するが、筋状痕等の観察から施文具は二枚貝とみられる。下位の並走する



第44図 6類土器分布図



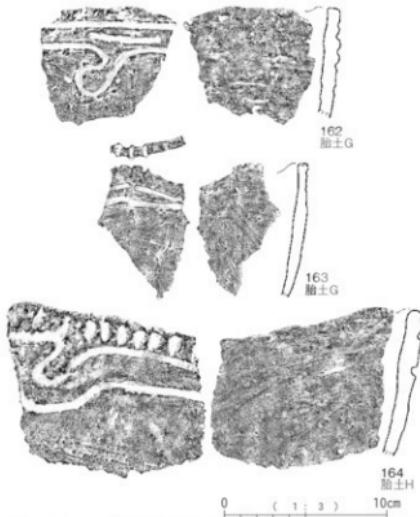
第45図 7類土器分布図



第46図 7 A類土器実測図(1)【2本並行沈線文】

2本の沈線文は一直線には引かれておらず、波頂部で一旦中断して間隔を置き、再度施文を行っている。なお、内外面とも丁寧に撫でられるが、内面では輪積み痕が観察でき、口唇部は舌状に尖る。150は復元口径29.5cmで口縁部が直行する深鉢形土器で、若干肥厚する口縁部施文帯に二枚貝を密に刺突し、その下に2本の並走する沈線文が周回する。その沈線文は、短沈線を繰り返し繋ぎ合わせて構成するもので、本資料の短沈線は左から右に引かれる。基本的に内外面共に器面調整はヘラナデで、内面は専ら横向方向に行われるが外面は縱や斜め方向と多彩で、口縁部に近い内面上部のみが指頭によりやや絞られている。胎土には大粒の凝灰岩粒が含まれ注目される。151.152.153はヘラ状工具で、154の口縁部は二枚貝を右方向へ織り返し押し引いて施文される。なお器面が黒色で光沢を保つことから、焼成段階で焼された可能性もある。155は緩やかな波状口縁で、口縁部の沈線文に先行して刻まれる爪形状刺突が印象的である。156の口縁部は二枚貝で右回りに施文され、154と同様に器面が黒色を呈し、下位には多量のススが残される。157は左回りに刺突が施され、その下には並行する2本の並行沈線文が施される。158は胎土粒子が細かく、含まれる角閃石は非常に多い。159は半截竹管状工具で刺突が行われている。160は角閃石や輝石を多く含む胎土で、凝灰岩粒は含まれない。161の内外面は丁寧に撫でられている。

162は緩やかな波状口縁で、指頭で押圧した部分に刺みが施される。なお沈線文は細く並走する沈線文間に短沈線文が充填されている。163の波頂部上面では深く、口縁部は浅く刻まれる。164の口縁部は左から右へ深く



第47図 7 A 類土器実測図 (2) 【2本並行沈線文2】



第48図 7 A 類土器分布図 (1)

第16表 7類土器観察表（1）

発見No	目次No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	施主	備考	
147	17285	17.641	15.718	144.062	Ⅲ	B-2	F		
148	14370	24.841	17.550	144.644	Ⅲ	C-2	H		
	15004	13.247	11.298	143.632	Ⅲ	B-2			
	3987	10.478	38.639	144.139	Ⅲ	B-4			
	29000	10.459	39.654	144.249	Ⅲ	B-4			
149	40084	10.687	39.491	144.242	Ⅲ	B-4			
	40100	10.660	39.563	144.250	Ⅲ	B-4			
	41290	10.575	39.950	144.212	Ⅲ	B-4			
	41251	10.649	39.561	144.240	Ⅲ	B-4			
	4007	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-4			
	965	26.019	87.501	144.190	Ⅲ	C-9			
	2418	22.193	88.603	143.809	Ⅲ	C-9			
	3510	25.866	87.505	143.981	Ⅲ	C-9			
	8543	25.331	87.697	143.874	Ⅲ	C-9			
	10685	25.429	87.569	143.827	Ⅲ	C-9			
	11458	26.130	87.779	143.814	Ⅲ	C-9			
	11460	25.852	87.698	143.801	Ⅲ	C-9			
	13541	26.138	87.716	143.783	Ⅲ	C-9			
	14023	25.664	87.400	143.665	Ⅲ	C-9			
	14024	25.750	87.299	143.695	Ⅲ	C-9			
	14031	25.786	88.941	143.654	Ⅲ	C-9			
	14032	26.005	87.190	143.710	Ⅲ	C-9			
	14033	26.013	87.299	143.680	Ⅲ	C-9			
	14034	26.149	87.105	143.725	Ⅲ	C-9			
	14496	26.104	87.154	143.737	Ⅲ	C-9			
	14502	25.964	87.187	143.586	Ⅲ	C-9			
	14569	22.741	82.827	143.612	Ⅲ	C-9			
	15634	26.071	87.129	143.689	Ⅲ	C-9			
	16888	26.035	87.155	143.659	Ⅲ	C-9			
	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9			
151	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	F		
152	1424	22.641	78.991	144.049	Ⅲ	C-8	G		
153	4079	23.530	18.852	144.523	Ⅲ	C-2	G		
154	5941	25.179	75.572	144.401	Ⅲ	C-8	G		
	5947	26.000	75.526	144.256	Ⅲ	C-8	G		
	14566	24.395	82.223	143.776	Ⅲ	C-9	G		
	155	5357	27.171	81.514	144.103	Ⅲ	C-9	H	
	157	14528	25.875	85.701	143.623	Ⅲ	C-9	H	
	158	13073	21.388	12.649	144.187	Ⅲ	C-2	F	
	159	15876	23.490	87.289	143.904	Ⅲ	C-9	G	
	160	16414	21.218	12.578	144.116	Ⅲ	C-2	F	
	14459	21.962	89.334	143.412	Ⅲ	C-9			
	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	E		
	一既	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10			

刻み鋸歯状をなす。深く施される2本の沈線文は突起を起点に文様を構成し、それぞれ個別の鉤形文をなす。胎土に多く含まれる大粒の凝灰岩粒が特徴的である。

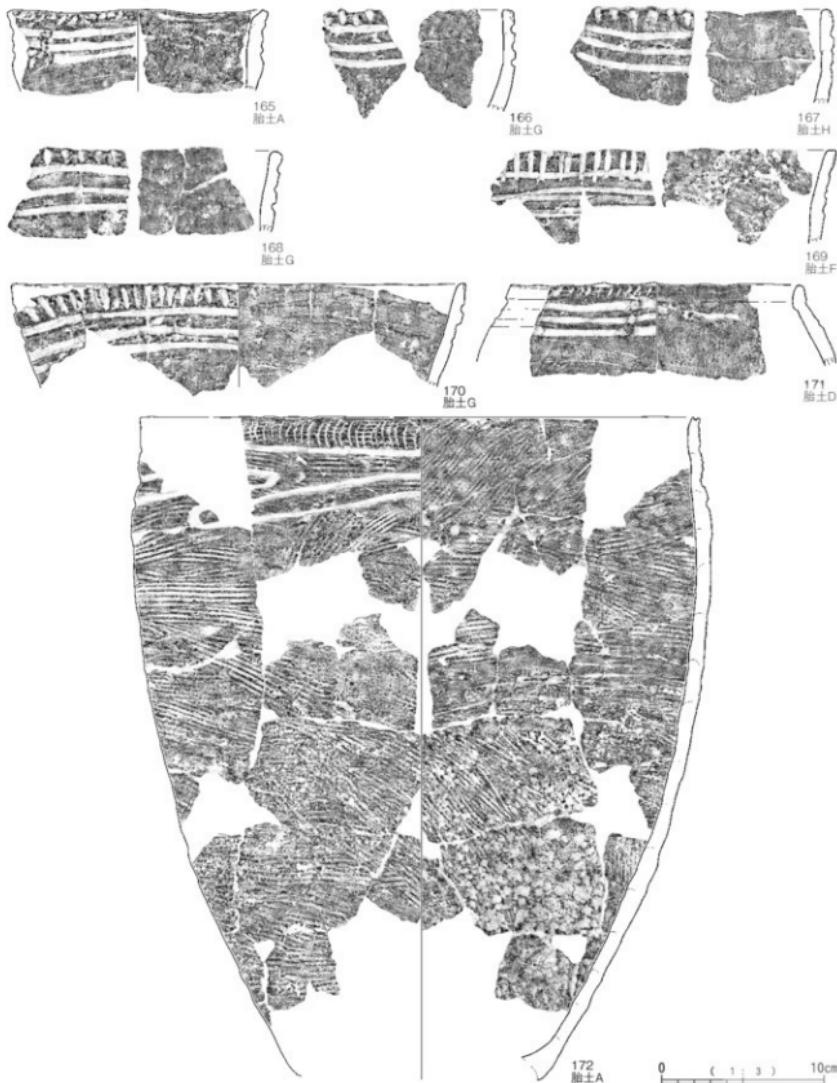
7A類3本並び沈線文

口縁部に二枚貝の腹縁部を連続して刺突し、その下位に3本の沈線文を施した土器である。

165は沈線文の起点と終点を深く押圧する手法である。166,167の内外面は撫でて仕上げるが、内面には輪積み痕が残される。168は器壁の薄い大型土器で、口縁部の刻みは深く左回りに行い鋸歯状に仕上げる。169は二枚貝以外の工具で刻み、いずれも沈線文に先行する。170は復元口径27.9cmで、口縁部の刻みは場所により大きく異なる。資料の中央部はヘラで左から右方向に連続して施し、両サイドは工具を下から口縁部に向けて刺突するように押圧する。171は形状や起点と終点を深く押圧する手法が類似する。172は復元口径34.3cm、高さ41cmを越す竈弾形の深鉢形土器で、口縁部は沈線文に先行して二枚貝の腹縁部を密に刺突する。内外面共に条痕調整をそのまま残し、その上位に3本の沈線文を加え、2本目と3本目はS字状の曲線文に変化する。内面には輪積



第49図 7 A類土器分布図(2)

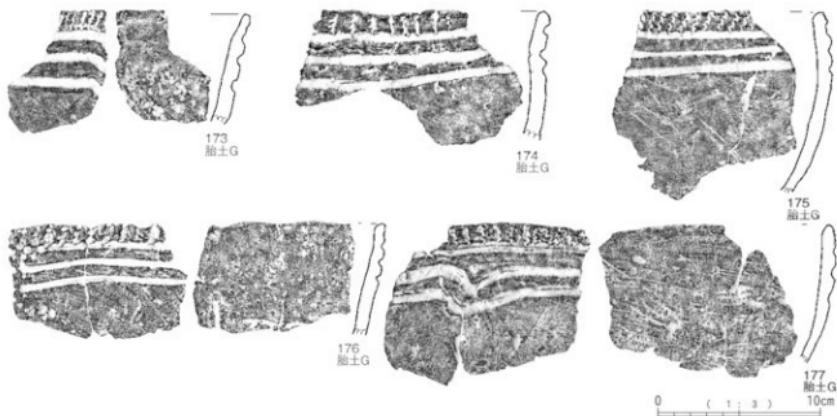


第50図 7 A類土器実測図 (3) 【3本並行沈線文 1】

み痕がそのまま残され、口縁部最上位では先行して積み上げた内壁に、外壁を貼り足した跡痕が見て取れる。そのため口唇部の中央には溝状の貼り合わせ痕が残される。大量の長石粒を含む胎土は雲母も散見できる。なお本資

料は、今回復元できた資料の中で最大の土器である。

173は口縁部刻みが明瞭で3本の並行する鉤形文も深く描かれる。174は短沈線を繰り返し繋ぎ合わせにより沈線文を完成している。なお、胎土はきめが細か



第51図 7A類土器実測図

く凝灰岩粒は含まないもので、沈線文が口縁部刻込みに先行する。175は口縁部が丸く内湾する形状で、口縁部の二枚貝刺突は右から左方向に施される。並走する3本の沈線文は、丁寧に撫でて仕上げた器面に深く明瞭に施される。なお、胴部以下にはススの付着が認められる。176は大型土器とみられ、口縁部は右回りに二枚貝を刻み、それぞれの沈線文は直結することなく間隔を置いて描かれる。177の3本の沈線文は最上位が直線文、下位2本が並走する鉤形文となる。外面は丁寧に撫でられ、内面には横方向のヘラナデ痕が残される。沈線文の後に施された口縁部二枚貝刺突は、部分により刺突方向を変える。

178は二枚貝以外の工具で刻みを施し、いずれも沈線文に先行して施される。179の沈線文はやや細い。180の口縁部は半截竹管状工具で斜めに刻む。181の頗るは疑問が残るが、幅広の沈線文で口縁部が肥厚する傾向がみられる。182は突出する山形波頂部を持つもので、波頂部間も緩やかに肥厚する可能性がある。口縁部の刻みは二枚貝の特徴を良く残し、沈線文は波頂部の中央で引き直される。183の口縁部の二枚貝刺突も沈線文に先行して施される。184の沈線文はやや細い。185は狭い口縁部施文帶を二枚貝で斜めに刻む。186の口縁部刻みは沈線文の施文後に施される。187は復元口徑20.4cmで3か所に双角状の波頂部を備え、口唇部から口縁部を直接二枚貝で刻む。この波頂部を起点に左右非対称の文様を構成するが、施文は3本の沈線文が基本となり展開する。なお、施文帯以下は縱方向にヘラ削りが施されたため、施文帯が肥厚することとなる。施文帯は丁寧なナデにより仕上げられるが、内面は粗い横方向のヘラナデ仕上げとなり、輪積み痕も観察できる。

188は7か所の山形の突起部を持つとみられ、35cmの口径が復元できる。口縁部は左回りに二枚貝で刻まれる。

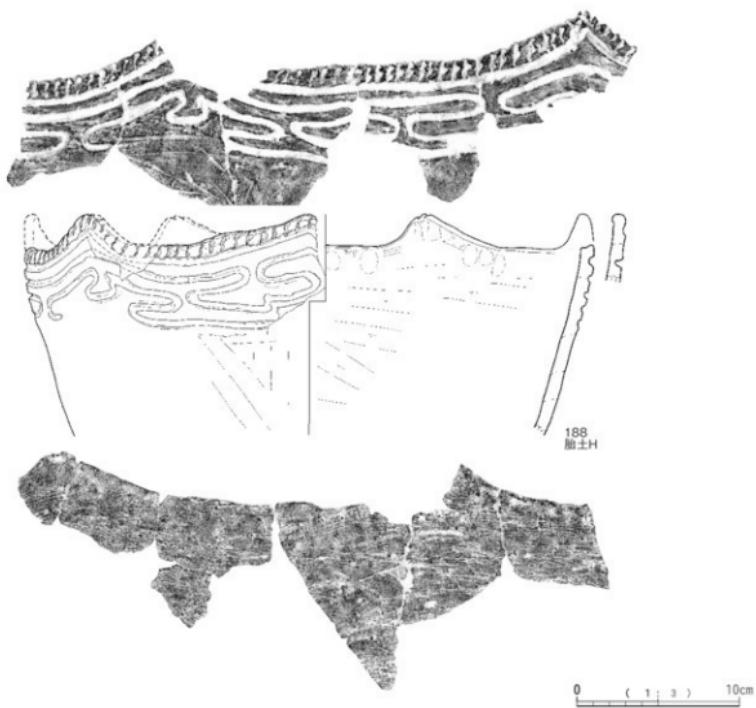
(4) 【3本並行沈線文2】

文様は突起部を起点に展開し、最上位の沈線文は口縁部に沿って周回し2本目以下はS字の変形文等の屈曲文が描かれる。

189は口縁部の二枚貝刺突が沈線文に先行して施される。190の頗るは若干疑問が残るが狭い口唇部は、小さな波状に若干肥厚する口縁部は二枚貝で連続して刻まれる。3本の沈線文は起点と終点を深く押圧し強調されている。191の内面は横方向の条痕仕上げで、器面に強いざらつき感を残す。192では渦巻きの変形文がみられ、ススが残る。193.194の沈線文はやや細い。195の口縁部の二枚貝刺突は右から左に移動する。196は口唇部が尖り、最上位は周回する沈線文でその下位2本の沈線は鉤形文となる。197は緩やかな波状口縁で3本の沈線文は深くて明瞭である。198のやや広めの口縁部二枚貝刻みは丁寧である。199は器壁も厚く大型土器とみられる。口縁部の二枚貝刻みは明瞭で、並走する沈線文も深い。200の沈線文は狭い範囲に集中する。201は口縁端部を棒状工具で刻み、3本の並行沈線文が周回する。砂粒の多い胎土で、いわゆる指宿胎土に該当する。



第52図 7 A 類土器実測図（5）【3本並行沈線文3】



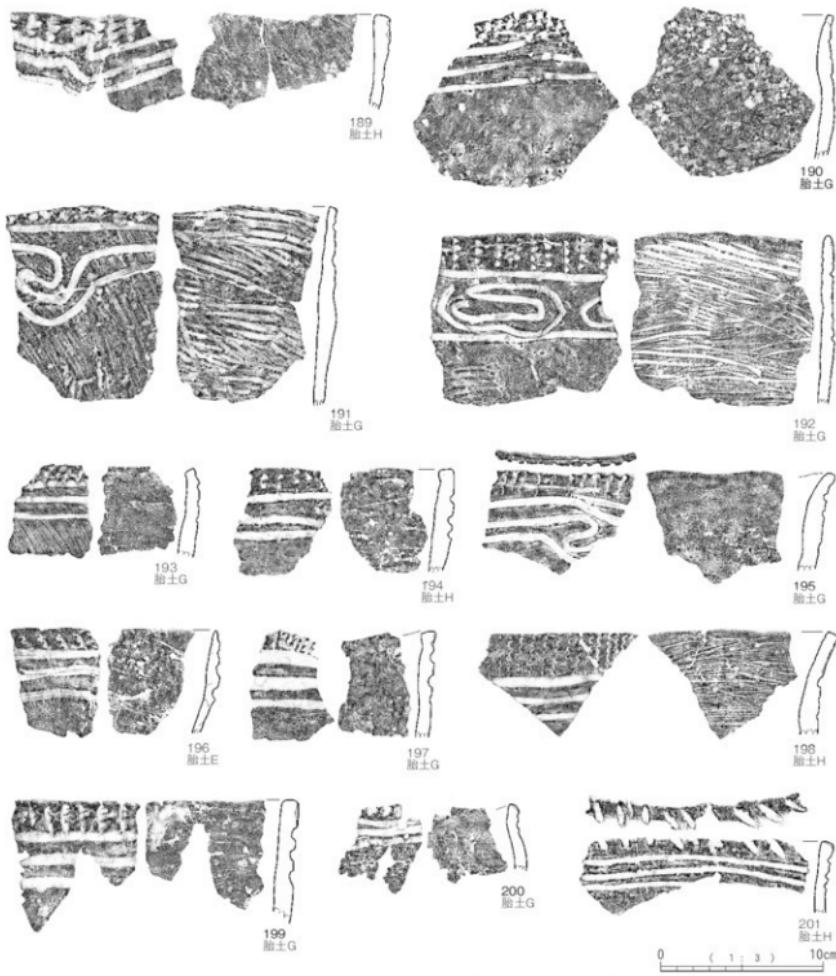
第53図 7 A類土器実測図 (6) 【3本並行沈線文4】

第17表 7類土器観察表 (2)

測定No.	因No.	計上No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	グリッド	胎土	備考
47	165	10442	13247	23416	144265	Ⅲ	B-3	G	
	166	16352	17744	16438	144252	Ⅲ	B-2	G	
	167	41905	7882	41624	143982	Ⅲ	A-5	H	
	168	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3	A	
	169	13871	23427	21702	144734	Ⅲ	C-3	G	
51	170	6069	23377	79129	144071	Ⅲ	C-6	H	
	171	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	G	
	172	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-3	F	
	173	14483	25564	68294	143611	Ⅲ	C-9		
	174	14484	25594	68801	143577	Ⅲ	C-9		
52	175	19813	24354	69298	143490	Ⅲ	C-9		
	176	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
	177	3661	27338	85136	144033	Ⅲ	C-9		
	178	5253	27394	85102	143967	Ⅲ	C-9		
	179	5414	27168	86229	143326	Ⅲ	C-9		
53	180	9636	24659	83927	143831	Ⅲ	C-9		
	181	10715	27367	85260	143848	Ⅲ	C-9		
	182	11539	27047	85313	143802	Ⅲ	C-9		
	183	11540	27078	85293	143842	Ⅲ	C-9		
	184	13568	25125	84491	143757	Ⅲ	C-9		
54	185	14060	25061	85843	143656	Ⅲ	C-9		
	186	14538	24314	88878	143576	Ⅲ	C-9		
	187	15526	24424	91142	143626	Ⅲ	C-10		
	188	15783	22522	89716	143376	Ⅲ	C-9		
	189	15859	24178	87821	143422	Ⅲ	C-9		
55	190	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
	191	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
	192	17790	17412	82995	142809	Ⅲ	C-9		
	193	17978	21183	84457	143377	Ⅲ	C-9		
	194	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9		
56	195	14078	22048	73882	144268	Ⅲ	C-6		
	196	1822	22191	74023	144170	Ⅲ	C-6		
	197	8526	22017	73943	144263	Ⅲ	C-6		
	198	8528	21964	73590	144301	Ⅲ	C-6		

第18表 7類土器観察表 (3)

測定No.	因No.	計上No.	X座標	Y座標	Z座標	部位	グリッド	胎土	備考
51	173	14632	24050	20551	144657	Ⅲ	C-3	G	
	174	38054	7899	42401	144017	Ⅲ	A-5	G	
	175	14062	21538	83165	143521	Ⅲ	C-9	G	
	176	15991	18274	83321	143032	Ⅲ	B-9	G	
	177	18287	18442	85254	142912	Ⅲ	B-9	G	
52	178	6111	21393	77856	143797	Ⅲ	C-6	G	
	179	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-6		
	180	16654	19864	83455	143147	Ⅲ	B-9	G	
	181	737	25367	84407	144157	Ⅲ	C-9	E	
	182	13691	22534	81583	143694	Ⅲ	C-9	G	
53	183	5476	18664	87218	143092	Ⅲ	B-9	E	
	184	1833	21110	86763	143401	Ⅲ	B-9		
	185	17791	21024	81025	143571	Ⅲ	C-9		
	186	15663	19271	80306	143357	Ⅲ	B-9		
	187	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9		
54	188	17799	24841	87927	143430	Ⅲ	C-9		
	189	19139	24307	87966	143411	Ⅲ	C-9		
	190	4762	12135	45507	144419	Ⅲ	B-5	G	
	191	15661	19286	86669	143271	Ⅲ	B-9	G	
	192	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9		
55	193	17750	17412	82995	142809	Ⅲ	C-9		
	194	14078	22048	73882	144268	Ⅲ	C-6		
	195	1822	22191	74023	144170	Ⅲ	C-6		
	196	8526	22017	73943	144263	Ⅲ	C-6		
	197	8528	21964	73590	144301	Ⅲ	C-6		



第54図 7 A類土器実測図 (7) 【3本並行沈線文 5】

第19表 7類土器観察表 (4)

件番No	形No	基上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
189	14540	24.509	85.448	143.602	Ⅲ	C-9			
	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	H		
190	17741	17.674	85.359	142.815	Ⅲ	B-9	G		
191	16637	18.376	84.205	142.936	Ⅲ	B-9	G		
	16023	16.659	83.588	142.679	Ⅲ	B-9	G		
192	14536	24.674	85.394	143.576	Ⅲ	C-9	G		
193	14501	26.513	86.245	143.770	Ⅲ	C-9	G		
194	15832	25.423	88.239	143.544	Ⅲ	C-9	H		
195	15498	19.239	90.974	143.276	Ⅲ	B-10	G		
196	9482	23.549	77.465	144.091	Ⅲ	C-8	E		
197	16342	17.493	16.600	144.218	Ⅲ	B-2	G		

第20表 7類土器観察表 (5)

件番No	形No	基上No	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
54	196	5571	23.659	82.894	143.885	Ⅲ	C-9		
		8574	27.396	85.462	143.938	Ⅲ	C-9	H	
	199	15954	20.039	82.798	143.062	Ⅲ	C-9	G	
	200	-B	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	G	
	201	16632	13.248	22.735	144.084	Ⅲ	B-3		
		38398	8.365	42.504	144.049	Ⅲ	A-5	H	

7A類4本並行沈線文

口縁部に二枚貝の腹縫部を連続して刺突し、その下位に4本の沈線文を施した土器である。

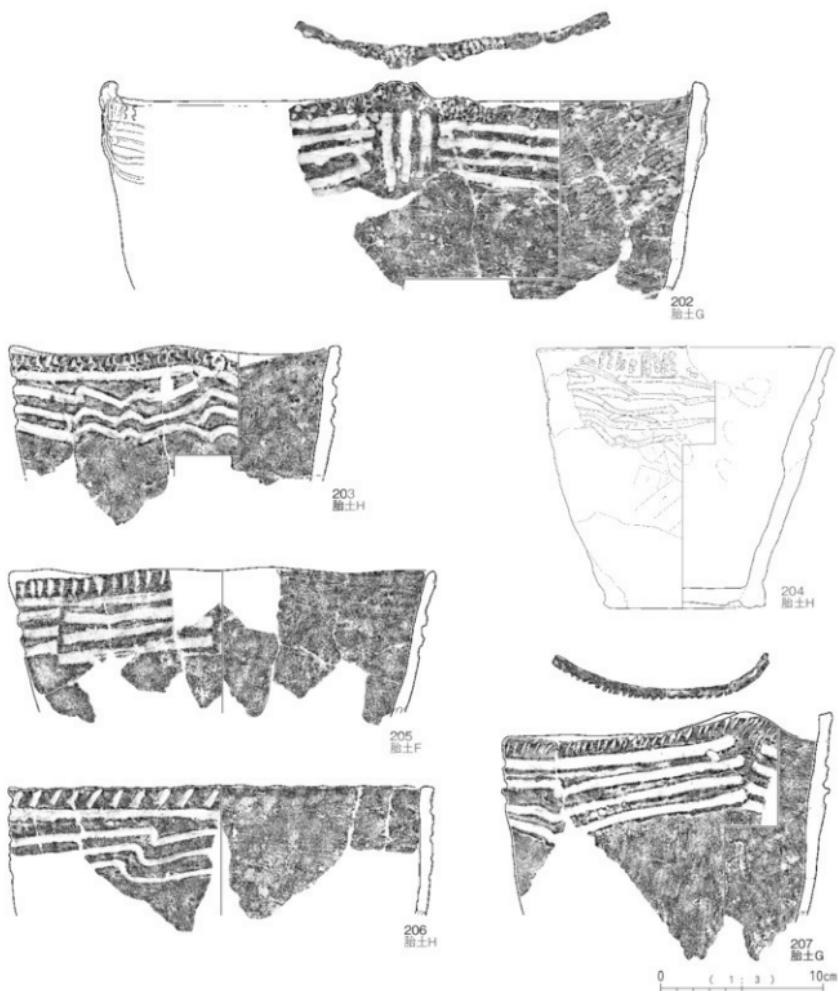
202は復元口径37.4cmで、頂部を二枚貝で刻んだ台形状突起下位の縦方向の3本の短沈線文を起点に施文が展開する。口縁部の二枚貝刻みには部位による変化もみられる。長石粒に混じり小豆色の粒子もみられ、内面では発泡したような痕跡もみられる。203は波頂部を起点とした文様構成で、4本の沈線文の最上位は波頂部間の直線文、下位の3本は並走する鉤形文として描かれる。なお、沈線文が口縁部刻みに先行し、深く明瞭な沈線文をなし、沈線間を含めススの付着がみられる。204は復元口径17.9cm、高さ16.1cm、底部径10.0cmの小型深鉢形土器で、総じて器壁は厚く、胎土の重量によりひしゃげている。口唇部は貝殻で浅い刻みが施され、口縁部施文帶には二枚貝で連続する刻みが施される。沈線は4本を基本にして、一部変異もみられるが途中で鉤形に屈曲する沈線文が周回する。205は半截竹管状工具により10cm程の沈線文を間隔を置きながら口縁部を周回するように配置する。胎土はきめの細かい砂質のもので石英粒や角閃石を多く含む。206は刺突具が異なるが沈線文の構成は207と同じである。207も波頂部間で文様を構成し、下位の3本は並走する鉤形文として描かれる。口唇部は安定した平坦面で、端部を二枚貝で刻む。

208は波状口縁部で刻み等は不明である。突起部上面と口縁部は二枚貝で刻み、ナデにより仕上げた施文帶に起点を強調する沈線文を描く。胎土は長石粒や石英粒等の砂粒を多く含むもので、器面はザラザラした質感を呈する。209の器壁は厚く硬質に焼成された大型土器で、口縁部の刻みは沈線文の上から重ねて施文される。器面はヘラでナデ消し。内面は上部はナデ、下部はヘラナデがそのまま残される。210も大型土器とみられ、薄手硬質の器面に短沈線を繰り返し繋いで沈線文を構成する。これも胎土は細かく、長石粒を主に少数の角閃石を含む。211も波頂部を起点に文様を構成し、特に沈線の始点と終点では深く押圧する。施文帶では丁寧なナデ仕上げがみられるが、内面は粗い横方向のヘラナデで仕上げられ、輪積み痕も観察される。

212は口縁部の刻みが口唇端部に限られ、口縁部直下を周回する直線状の沈線文は確認できない。また、文様構成は突起部を起点とするとみられるが、残存部位からは判然としない。復元口径は31cmで、222と同一個体の可能性が高い。器面は丁寧に撫でられ、内面は横方向の工具ナデ痕が明瞭に残る。213は4~5か所の山形波頂部を備えるもので、32cm程の口径が復元できる。総じて器壁は厚く、中でも施文帶から口縁部が厚いのが特徴的である。波頂部間で文様を構成し、波頂部間を並走する2本1組の幅広沈線文が波頂部で菱形状に広がり、3本目がS字変形の曲線文を構成する。口縁部から施文帶直下は灰褐色を、それ以下は薄い橙色の器面を呈し、灰



第55図 7A類土器分布図(3)

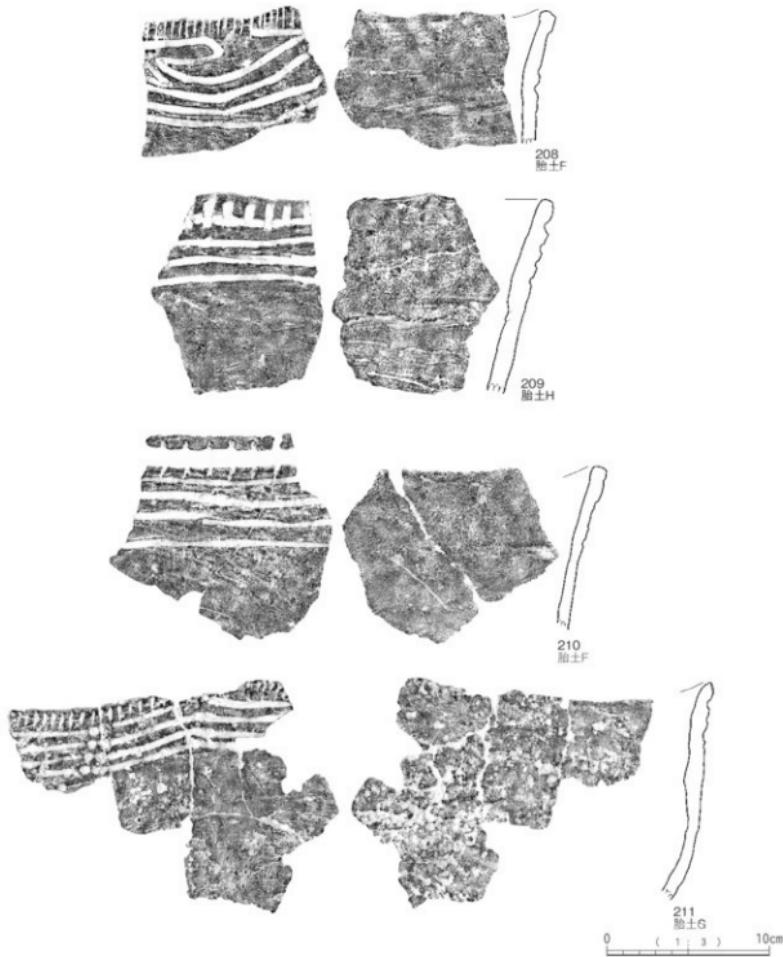


第56図 7 A類土器実測図 (8) 【4本並行沈線文 1】

褐色のエリアにススが付着する。

214は最上位の沈線文が口縁部に沿って周回し、下位3本は大きく屈曲し、屈曲文は波状文、鉤形文、長梢円文と多様化がみられる。内面調整は粗く、口縁部に沿う縱方向の指押さえ痕や輪積み痕がそのまま残される。215は口縁部刻みと沈線の施文具が同一で、波頂部下位では2本目と3本目間の菱形空間に屈曲文が充填される。器壁は薄いが大型土器とみられ、硬質で薄い肌色に

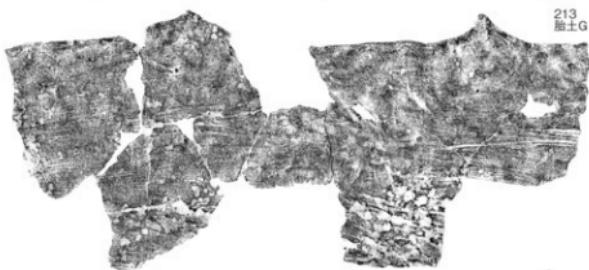
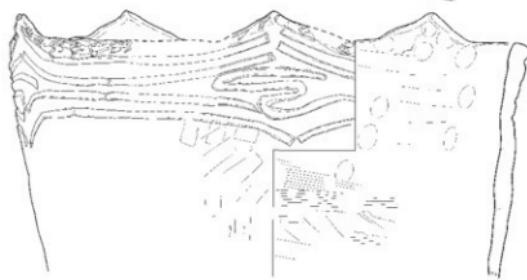
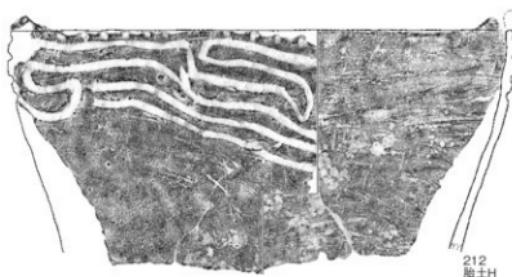
発色している。216は大型の深鉢形土器で、口縁部の刻みは上下が深く押圧される。沈線は並行沈線文と鉤形文の組み合わせの可能性が高い。施文帶は特に丁寧に撫でられ、黒灰色に光沢を持つ。217も波頂部が施文の起点となり、口縁部の二枚貝刺突は刺突角度の使い分けが行われており、沈線文は波頂部で下方向に並行して半環状に大きく屈曲する。内面は粗い条痕仕上げで、輪積み痕を残し、胎土に大粒の凝灰岩粒を含む。218は沈線文が



第57図 7A類土器実測図(9)【4本並行沈線文2】

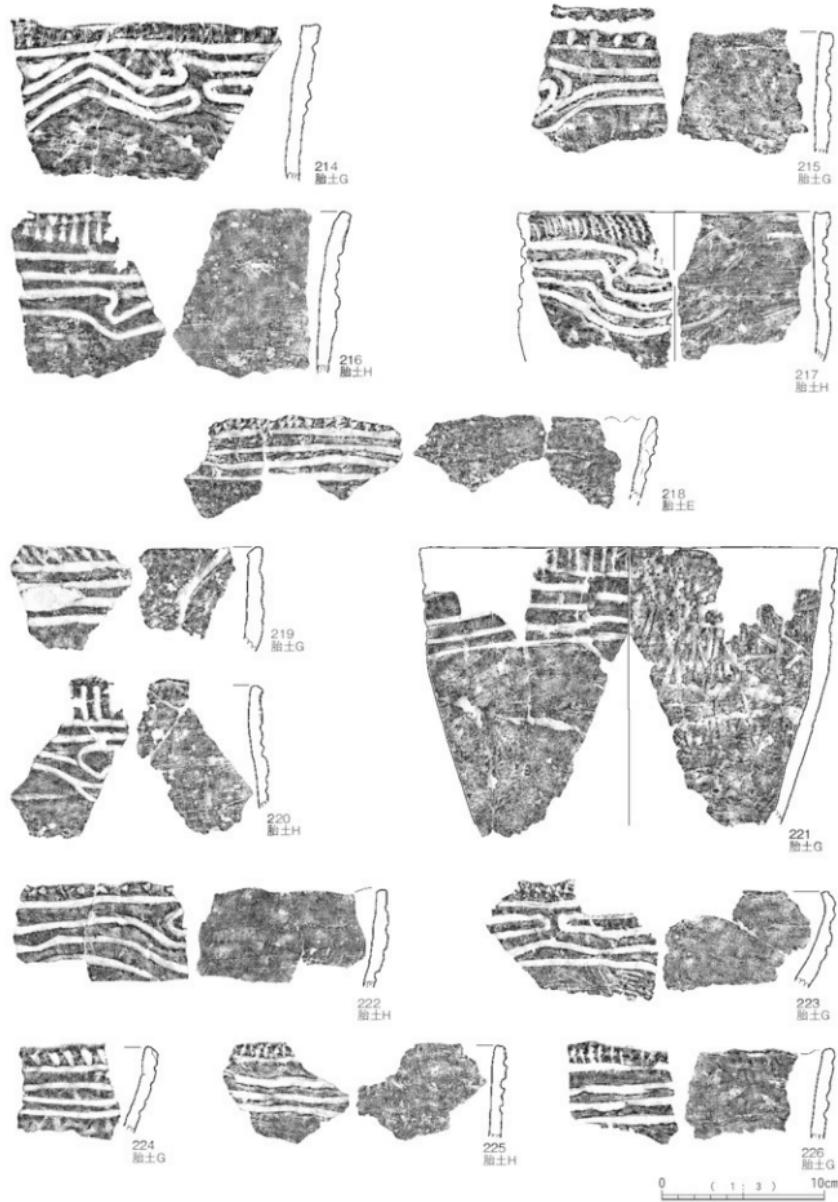
並走する4本で構成され、口縁部は緩やかな波状をなす。219の傾きは若干疑問を残すが、口唇部は平坦で内側に傾き内面はほぼ垂直に立つ。220は施文具が棒状工具で3本目との間に三角形の施文帯が形成される。きめの細かい胎土で、沈線間にはススの付着がみられる。221も沈線の始点と終点は深く押圧され、口縁部施文帯は若干広くなる。内面の上部調整は工具を用いた縱方向の押さえが特徴的である。222は内湾する形状で狭い口縁部施文帯は半截竹管状工具で連続して刻まれる。器面は丁寧

に撫でて仕上げられるが、内面は横方向のヘラナデがそのまま残る。223も内湾する形状で、口縁部は二枚貝で連続して刻みが施され、沈線内にはススの付着がみられる。224の口縁部も若干内湾し、内面には輪積み痕を残す。224と225の口縁部刻みは直下の沈線文の後に施文され、225の沈線文は起点が強く押さえられる。226は薄手で硬質に焼成された深鉢形土器で、周回する4本の沈線文は2cm~4cm程度の短沈線を繋ぎ合わせて施文される。225と226は実測後接合した。



0 (1 : 3) 10cm

第58図 7 A 類土器実測図 (10) 【4本並行沈線文3】



第59図 7 A 類土器実測図 (11) 【4本並行沈線文4】

第21表 7類土器觀察表 (6)

件番No	Shu	上土No	X座標	Y座標	Z座標	層位	ブリッジ	胎土	備考	
202		14622	23.341	21.906	144.516	N	C.3			
		14764	23.374	21.483	144.467	N	C.3	G		
		-15	0.000	0.000	0.000	N	C.3			
		15815	24.386	88.953	143.474	III	C.9			
203		15829	24.848	88.572	143.490	III	C.9			
		15863	24.681	86.607	143.440	III	C.9	H		
		15864	24.607	86.659	143.429	III	C.9			
		16892	24.803	87.074	143.450	III	C.9			
204		-15	0.000	0.000	0.000	III	C.9			
		58	21.387	86.563	0.000	II	C.9			
		96	26.147	80.315	144.326	II	C.9			
		1722	24.996	79.718	144.227	II	C.8			
205		1776	25.447	78.169	144.303	II	C.8			
		1778	25.971	78.074	144.280	II	C.8			
		1781	25.938	77.832	144.348	II	C.8			
		2319	21.183	81.134	143.742	II	C.9	H		
206		2642	25.129	81.632	144.096	II	C.9			
		5830	23.527	80.516	144.009	II	C.9			
		5865	25.963	77.779	144.313	II	C.8			
		5971	25.848	77.765	144.261	II	C.8			
207		7072	24.340	79.230	144.104	II	C.8			
		8666	26.996	82.772	143.972	II	C.9			
		8667	26.962	82.733	143.994	II	C.9			
		8673	26.595	82.600	143.974	II	C.9	F		
208		8689	26.093	83.070	143.916	II	C.9			
		8759	25.729	81.563	144.011	II	C.9			
		10806	26.595	82.867	143.976	II	C.9			
		3163	21.701	86.001	143.397	II	C.9			
209		14050	26.073	86.803	143.735	II	C.9	H		
		19000	18.693	85.675	142.914	II	B.9			
		-15	0.000	0.000	0.000	II	C.9			
		14031	25.789	86.941	143.654	II	C.9			
210		14509	26.419	87.582	143.547	II	C.9	G		
		14549	24.436	84.168	143.565	II	C.9			
		208	11.916	22.718	78.062	143.843	II	C.8	F	
		209	20.539	26.571	76.133	144.475	II	C.8	H	
211		18326	24.373	16.899	144.409	B	C.2			
		18764	27.648	190.640	144.713	B	C.11	F		
		41376	9.650	41.501	144.124	B	A.5			
		41900	9.461	41.832	144.052	B	A.5	G		
212		41950	9.602	41.599	143.962	B	A.5			
		41957	9.620	41.639	143.996	B	A.5			
		8622	26.418	84.145	143.853	II	C.9			
		10760	26.222	83.904	143.875	II	C.9	H		
213		2361	21.413	83.857	143.747	II	C.9			
		2562	27.191	80.046	144.228	II	C.9			
		5706	19.029	87.874	143.396	II	B.9			
		19900	21.837	83.840	142.835	II	C.9	G		
214		19914	27.281	79.943	144.340	II	C.8			
		-15	0.000	0.000	0.000	II	C.9			
		-15	0.000	0.000	0.000	I	C.9			
		214	24.903	85.640	143.586	II	C.9	G		
215		-15	0.000	0.000	0.000	II	C.9			
		6525	20.187	87.204	143.158	N	C.9	G		
		21402	25.209	86.877	143.727	II	C.9	H		
		217	14356	21.108	14.108	144.199	B	C.2	H	
216		7502	9.209	78.743	143.742	B	C.8			
		7502	21.223	78.743	143.742	B	C.8			
		16677	18.475	83.019	142.969	B	B.9	E		
		16677	18.475	83.019	142.969	B	B.9			
217		219	4053	24.683	59.662	144.970	B	C.6	G	
		219	14066	24.529	85.022	143.693	II	C.9	H	
		-15	0.000	0.000	0.000	II	C.9			
		185	26.735	88.238	144.172	II	C.9			
218		3969	20.576	80.886	143.653	II	C.9			
		5597	20.597	81.249	143.644	II	C.9			
		14192	20.288	80.896	143.419	II	C.9	G		
		14195	20.558	80.788	143.452	II	C.9			
219		-15	0.000	0.000	0.000	II	C.9			
		6752	25.965	80.624	144.056	II	C.9			
		10714	27.203	85.304	143.881	II	C.9	H		
		223	16489	24.017	20.508	144.364	N	C.3	G	
220		224	13657	25.666	83.479	143.824	II	C.9	G	
		1742	25.841	79.030	144.290	II	C.8	H		
		226	2367	20.690	84.346	143.707	II	C.9	G	

7A類5本以上並行沈線文

口縁部に二枚貝の腹縁部を連続して刺突し、その下位に5本以上の沈線文を施した土器である。

227は復元口径17.5cmの小型鉢形土器で、器面は内外とも撫でて仕上げられ、施文帯は丁寧で現状でも光沢を保つ。口唇部は3か所に台形状の突起が作出され、その間に緩やかな波頂部を備える。口縁部は左から右にへラで深く連續刺突文を先行して刻み、その下位に2本の並走する沈線文が周回する。沈線文も左から右方向に繋ぎ、突起部下位に三角形文、その間に渦巻き文を充填する。なお、三角形文を構成する沈線文の起点と終点は、深く押さえて強調されている。特に胸部の屈曲部には集中してスカスカが付着し、胎土には大粒の凝灰岩粒を含む。228は復元口径31.6cmで、口唇部形状及び施文構成は227と同様である。3か所の台形状突起上面は沈線で押さえ、口縁部は連続して二枚貝で深く刻むが下位の口縁部を周回する沈線文がこれに先行する。突起部下位の3か所に三角形と円の組み合わせ文を配し、その間は非対称な各種の沈線文が横走する。器面調整はヘラの縱方向のナデ、施文帯は丁寧なナデにより仕上げられ、内面はヘラナデで調整を終えている。なお227では、三角形文と渦巻き文が個別に文様を構成するが、228では二つの文様の組み合わせで文様が構成される。したがって、この2点の土器は同時性が高いと判断できる。

229は詳細な文様構成は把握できないが、S字変形状の沈線文が多数重なる。なお、口唇部にねじり紐突起を貼り付けた剥落痕が残る。230は突起部の内側の3か所をヘラで深く刻み、口縁部も連続して刻む。突起部を起点とする文様構成とみられ、沈線の起点と終点は深く刺突し強調される。沈線間に三角文ないし菱形文、鈎形文等が展開する。内面はナデで仕上げているが、輪積み痕はそのまま残される。胎土は肌色に発色し、大粒の凝灰岩粒を含む。231は小破片であるが、口唇部にはねじり紐が貼付され、丁寧に撫でて仕上げた器面に深く明瞭な沈線による直線や屈曲文が展開する。232はマジカルな施文がみられる。233もマジカルな施文がみられる。234.235は同一個体とみられ、口縁部は二枚貝で斜めに整然と刻まれる。最上位の沈線文は口縁部に沿って周回し、下位の多数の沈線文は鈎形文を主に胴部上部の広範囲に展開する。角閃石に混じり雲母が散見できる。236は狭い口縁部を棒状工具で浅く刻み、並走する多数の沈線文で施文帯を構成する。なお施文順位は、口縁部の刻みが最後となる。237は台形状突起部の下位に円文が施される。239の傾き等は不明であるが薄手硬質な焼成で肌色を発色し、大粒の凝灰岩粒を含む胎土を使用する。口縁部刺突は右から左方向へ刻み、施文帯は深い沈線が器面を搔き取る様に施され、マジカルな施文がみられる。240の器壁は厚く、口唇部は面取りされ端正な平坦面をなす。施文帯は光沢のある黒色で、規格的な鈎形文等がみられる。241は口唇部中央を押し引いて沈線を刻む。

光沢を保つ器面は三角文や円文が展開すると理解される。242は鉤形文を組み合わせるもので、一見、人面様を呈している。243は内外面ともに人入に撫でられ、施文帯は光沢を保つ。口縁部は縱方向に刻みが施され、波頭部を起点に文様を構成しS字の変形文を中心とする明確な沈線文が展開する。244の口縁部施文帯は広めで、二枚貝刻みは左から右に施され、沈線は深くて明瞭である。245も波状口縁部で傾き等は不明であるが突起部上面と口縁部は二枚貝で刻まれ、ナデにより仕上げられた施文帯には起点を強調する沈線文が描かれる。胎土は長石粒や石英粒等の砂粒を多く含むもので、器面はザラザラした質感を呈する。

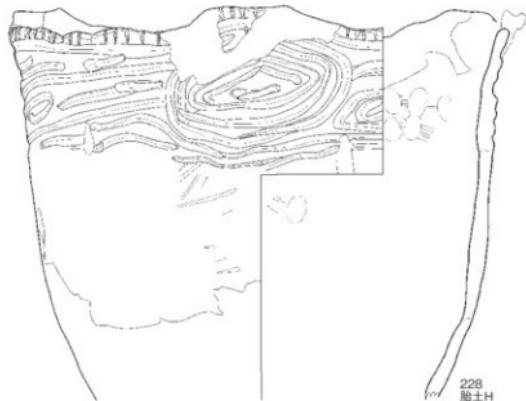
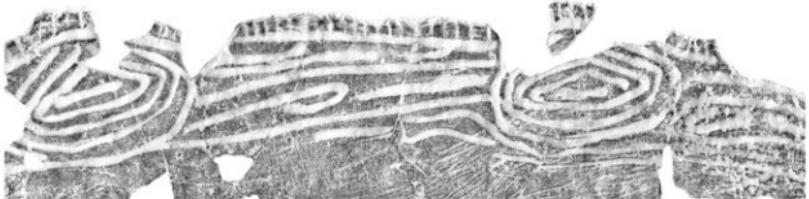
246は復元口径11cmの小型土器で、器壁は厚い。口縁部の刻みは逆C字状で、その下位に周回する2本の沈線文と鈎形文や屈曲文が展開する。247は薄手硬質な焼成で器面は光沢を保つ。248,249は同一個体とみられ、口径29cm程度が復元できる。口唇部は平坦で口縁部はヘラ状工具で深く刻まれ、丁寧に撫でられた器面の最上位に施された沈線文は口縁部に沿って周回し、その下位に並走する4本は同一箇所で屈曲する。なお、口縁部を周回する沈線文は口縁部刻みに先行する。また、施文帯は丁寧に撫でられるが、内面はヘラで撫でられ光沢を発する。胎土には大粒の凝灰岩粒が多量に含まれる。250,251,252の口縁部施文帯は広めである。253は口縁部が二枚貝で刻まれ、沈線文間に菱形状の施文が施される。254の施文具は口縁部刺突具と同一の工具でやや細い。255は円文、256はマジカルな施文が施される。257の器面はより丁寧に仕上げられ、端正な沈線文が施される。258は器身の薄い硬質土器で、沈線は浅く筋状痕の明瞭な工具が使用される。なお、口縁部直下の施文は周回する沈線文と曲線文の組み合わせによるものと理解される。259は口縁部の刻みが周回する沈線文に先行する。260は器面が明赤褐色に発色し、胎土には石英粒や角閃石等が目立つ。261は緩やかに外反する口唇部に平坦面が形成され、口縁部に刺突された貝殻腹縁部の上部はナデ仕上げにより消され、下部は沈線文で断ち切られる。沈線内と口縁部に多量のスグが残る。262も沈線の用い方は同様である。263の器面は丁寧に撫でられ、起点と終点を強調する沈線で文様を構成する。264は口縁部が内弯する大型の鉢形土器で、口唇部には狭い平坦面が形成され突起部を持つとみられる。口縁部は棒状工具で刻み、最上位の沈線文は口縁部に沿って周回する可能性が高い。2本目以下は長楨円文等の屈曲文や鈎形文で構成され、施文帯は丁寧に磨かれて深く明瞭な沈線内にはスグが残る。器面は薄い肌色を発色し、胎土には大粒の凝灰岩粒が含まれる。



第60図 7A類土器分布図(4)



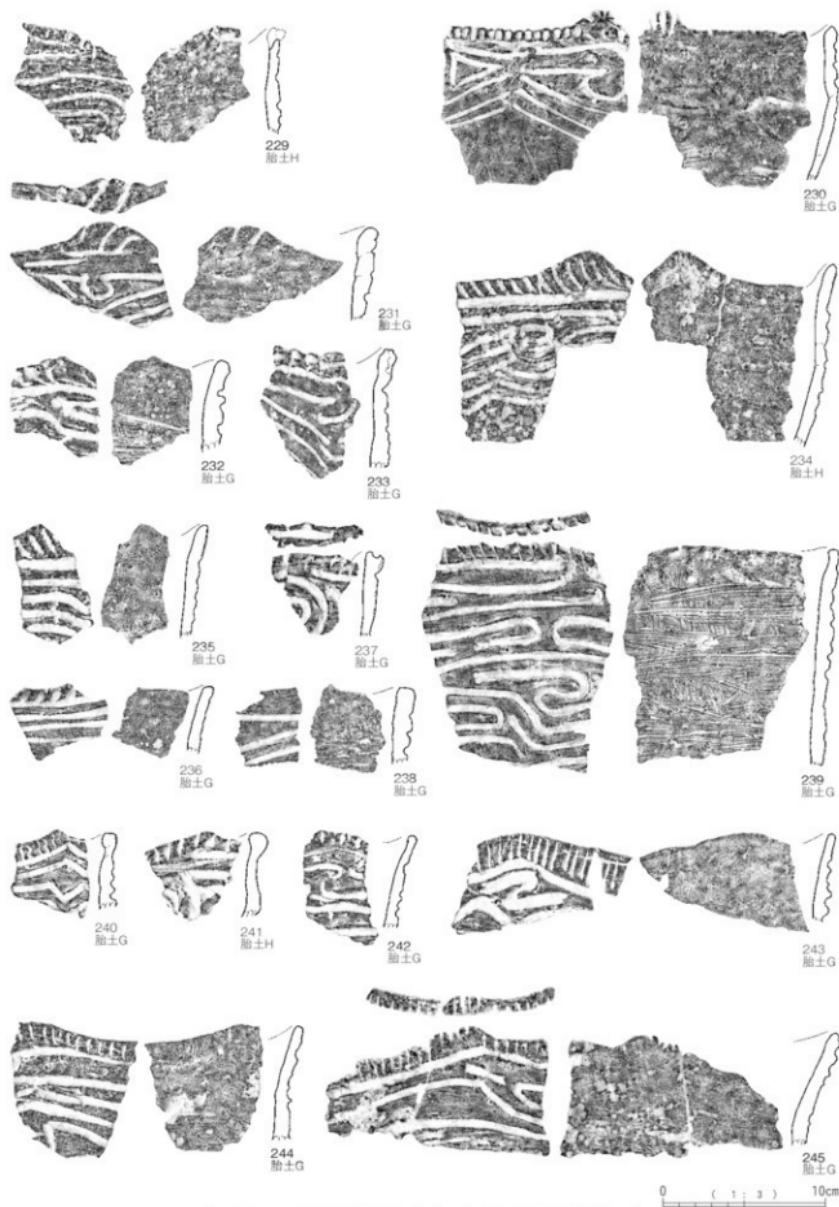
227
粘土H



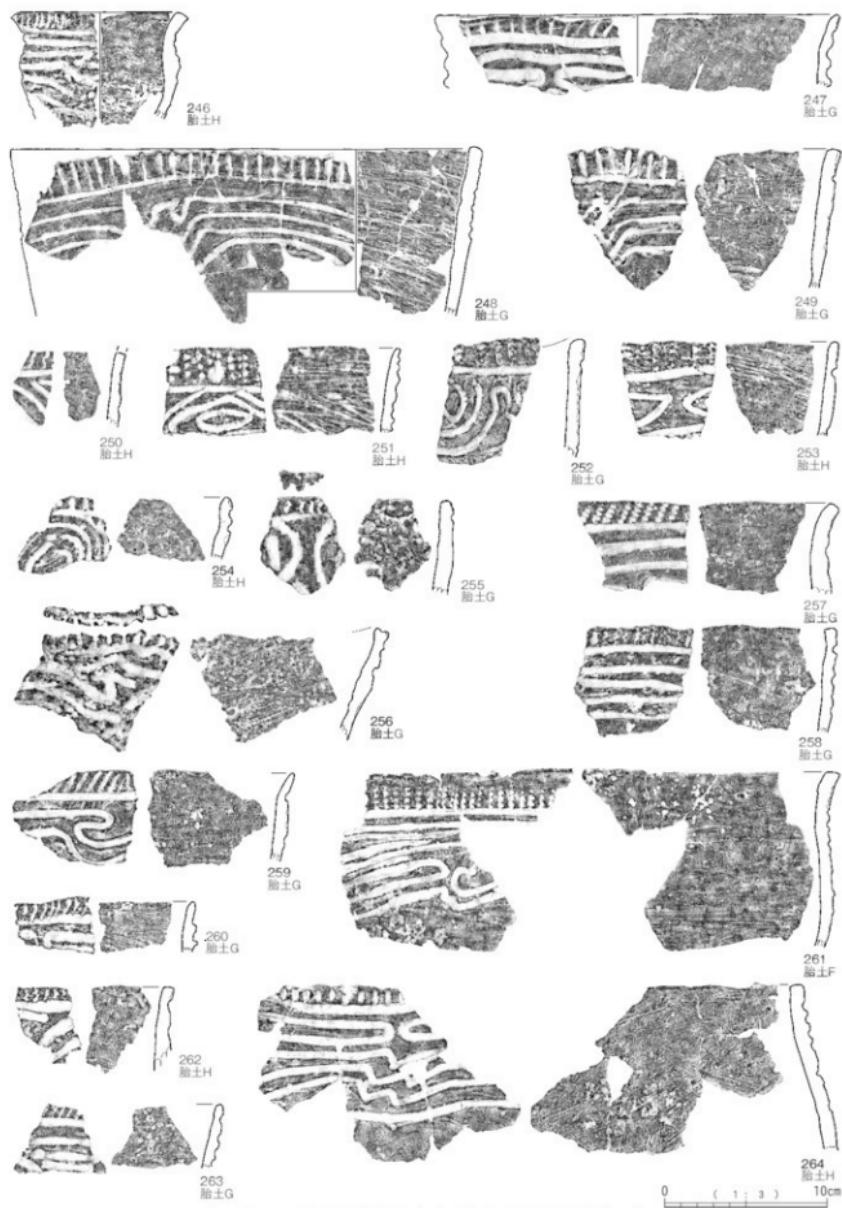
228
粘土H

0 (1 : 3) 10cm

第61図 7 A類土器実測図 (12) 【5本以上並行沈線文 1】



第62図 7 A類土器実測図 (13) 【5本以上並行沈線文2】



第63図 7 A類土器実測図 (14) 【5本以上並行沈線文 3】

第22表 7類土器観察表(7)

発掘No.	測定No.	形	縦幅	横幅	厚さ	ブリッド	胎土	備考
227	2563	27.209	79.996	144.352	3	C-B		
	5337	25.811	81.646	144.099	3	C-B		
	5326	25.905	81.627	144.077	3	C-B		H
	6716	25.888	81.687	144.091	3	C-B		
	6717	25.943	81.634	144.090	3	C-B		
	1994-4	27.251	79.943	144.340	3	C-B		
61	3836	6.652	41.350	144.019	3	A-5		
	3913	6.672	41.199	143.996	3	A-5		
	3914	7.993	41.186	143.978	3	A-5		
	4037	8.371	41.441	144.064	3	A-5		
	4039	8.158	41.500	144.013	3	A-5		
	4048	8.159	41.245	144.005	3	A-5		
	4050	8.047	41.101	143.987	3	A-5		
	4139	8.096	41.399	143.996	3	A-5		
	4140	7.676	41.174	143.996	3	A-5		
	41404	8.150	41.169	143.979	3	A-5		
228	41405	8.222	41.109	143.987	3	A-5		
	41406	8.316	41.096	143.975	3	A-5		
	41817	8.498	41.100	143.952	3	A-5		
	41824	8.201	41.127	143.909	3	A-5		
	41825	8.070	41.115	143.923	3	A-5		
	41826	8.131	41.208	143.906	3	A-5		H
	41827	8.083	41.497	143.942	3	A-5		
	41829	7.621	41.372	143.999	3	A-5		
	41830	7.877	41.220	143.995	3	A-5		
	41831	7.790	41.168	143.975	3	A-5		
62	41830	8.037	41.451	143.932	3	A-5		
	41950	8.625	41.018	143.904	3	A-5		
	41952	7.589	41.255	143.963	3	A-5		
	41955	8.008	41.529	143.939	3	A-5		
	41971	7.597	41.412	143.972	3	A-5		
	41972	7.615	41.466	143.957	3	A-5		
	-	0.000	0.000	0.000	3	A-4		
	-	0.000	0.000	0.000	1	A-4.5		
	-	0.000	0.000	0.000	1	A-5		
	-	0.000	0.000	0.000	1	A-4.5		
229	229	68.000	20.012	80.990	143.605	3	C-9	H
	230	18948	19.123	87.771	142.964	3	B-9	G
	231	-	0.000	0.000	0.000	1	B-5	G
	232	17150	15.903	11.018	143.769	3	B-2	G
	233	9546	24.023	54.139	144.805	3	C-6	G
	234	1545	22.862	36.503	144.209	3	C-8	G
	235	6143	23.913	36.507	144.209	3	C-8	H
	236	10864	20.807	80.484	143.610	3	C-9	G
	237	15844	25.873	86.653	143.494	3	C-9	G

7A類本数不明

口縁部は二枚貝の腹縫部を連続して刺突し、その下位に沈線文を施した土器である。

265.266は同一個体で、267も酷似する。口縁部の刺突具は貝殻とみられる。器面は丁寧に撫でられ、内面上位もヘラで丁寧に撫でている。268は口縁部の二枚貝刺みが密に施され、器面調整のナデも入念に行われている。269の刺突具は不明である。270の内面は粗い条痕仕上げを残す。271は押し引きが密に施されているため、口縁部が鋸歯状を呈する。273は刻みが深く施され、沈線文はやや細い。275の刻みは不規則である。278の沈線文は深く、口縁部刻みはS字状を呈する。279の胎土は多量の長石粒と少数の石英粒が含まれる。280の内面には粗いヘラナデ痕が残る。281の口縁部刻みは逆C字形に近い。282の刻みは左から右に施され、沈線文は深く明瞭である。283は擬似縄文の可能性もある。284は上下2段に刺突を重ねて施されている。285は確認できる全ての沈線文が併走する鉤形文となる。286の口縁部刻みは沈線文に先行し、台形状突起部の内側にも施されている。287の胎土は長石粒を多く含み、刻みは細くて密に施文

第23表 7類土器観察表(8)

発掘No.	測定No.	形	縦幅	横幅	厚さ	ブリッド	胎土	備考	
62	237	13961	21.696	91.808	143.554	3	C-10	G	
	238	-	0.000	0.000	0.000	3	B-9	G	
	239	15462	18.511	90.696	143.182	3	B-10	G	
	240	-	0.000	0.000	0.000	3	B-9	G	
	241	11233	23.785	77.253	144.077	3	C-6	H	
	242	14486	25.981	89.231	143.643	3	C-9	G	
243	11754	24.067	80.411	143.686	3	C-9			
	-	0.000	0.000	0.000	3	C-8	G		
	15910	24.406	85.273	143.546	3	C-9	G		
	14277	23.235	79.234	143.803	3	C-8			
	16008	23.837	78.974	143.775	3	C-8			
	6999	17.106	81.208	143.222	3	B-9			
247	14574	21.682	83.256	143.455	3	C-9	H		
	19012	19.505	85.620	143.209	3	B-9			
	15521	24.463	91.437	143.657	3	C-10	G		
248	-	0.000	0.000	0.000	3	C-9			
	5640	26.122	79.017	144.199	3	C-8			
	5857	25.943	78.970	144.292	3	C-8	G		
	11156	26.073	78.995	144.170	3	C-8			
	1763	25.311	78.720	144.252	3	C-8			
	11755	23.907	80.474	143.640	3	C-9	G		
250	7056	25.513	79.141	144.175	3	C-8	H		
	11459	26.067	87.733	143.825	3	C-9	H		
	252	14422	27.594	91.339	143.760	3	C-10	G	
	253	14014	21.724	89.411	143.512	3	C-9	H	
	9369	22.420	80.932	143.610	3	C-9	H		
	255	14241	23.909	78.870	143.873	3	C-8	G	
63	256	9509	23.043	75.729	144.100	3	C-8	G	
	257	12277	21.938	79.395	144.614	3	C-4	G	
	258	19033	16.562	81.103	143.061	3	B-9	G	
	259	17738	19.686	85.037	142.995	3	B-9	G	
	260	14158	23.026	80.675	143.688	3	C-9	G	
	261	16675	16.473	83.272	142.941	3	B-9	F	
	262	723	25.289	82.519	144.177	3	C-9	H	
	263	40188	10.117	43.211	144.174	3	B-5	G	
	5213	26.744	86.880	143.948	3	C-9			
	14499	26.636	87.008	143.662	3	C-9			
264	14500	26.785	86.736	143.562	3	C-9			
	15837	26.332	87.070	143.621	3	C-9			
	15838	26.672	86.896	143.665	3	C-9			
	15839	26.810	86.916	143.658	3	C-9			
	-	0.000	0.000	0.000	3	C-9			
	-	0.000	0.000	0.000	3	C-9			

される。288は2本目と3本目の沈線文は筋条痕が明瞭に残り、口縁部は肥厚する傾向にある。289は刻みの位置が上2段となる。290は口縁部の二枚貝刺みが逆C字形で上位2本の沈線文は口縁部に沿って並走し、下位は鉤形文で並走するといわれる。胎土には大小の凝灰岩粒を含む。

291は刻みが深く施され、C字状を呈する。292も刻みは整然と施されるが、施文具は定かでない。293も間隔を置いて沈線文を施し、指で撫でた内面には輪積み痕が残る。294は波頭部内側を3か所二枚貝で刻み、沈線文は間隔を置いて施される。胎土は石英粒が散見されるための細かいもので、薄い肌色を呈する。295は口縁部刻みが沈線文に先行し、台形状突起部の内側にも施される。296の口縁部刻みはS字状を呈する。297は施文帶の沈線文と同じ工具で口縁部にC字状の刺突文を施す。298の施文も逆C字形に近い。299の口縁部は内湾する傾向があり、内面には輪積み痕が残る。300の口縁部刻みは右から左に施され、内面には輪積み痕が残る。301の波頭部は指で平坦に押さえられている。302の沈線文は細い。303と304は明橙色の器面や内面の調整等が類似する。



第64図 7 A 類土器分布図 (5)

第24表 7類土器観察表(9)

件番号	固号	基上No	X座標	Y座標	層位	グリッド	施土	備考	
265	14003	25.812	87.234	143.616	B	C-9	H		
266	10915	23.849	80.489	143.954	B	C-9	H		
267	14007	21.196	82.037	143.511	B	C-9	H		
268	15593	17.873	83.928	142.999	B	B-9	G		
269	6756	24.131	96.937	144.420	B	C-10	G		
270	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-10	G		
271	38216	10.979	40.009	144.336	B	B-5	G		
272	40305	8.745	42.659	144.065	B	A-5	F		
273	7490	22.148	76.315	143.910	B	C-6	G		
274	16644	19.137	83.938	143.072	B	B-9	G		
275	11264	23.852	75.423	144.302	B	C-6	G		
276	13754	19.033	79.757	143.443	B	B-6	G		
277	14300	14.302	11.210	143.800	B	B-2	G		
278	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-10	G		
279	14079	20.567	84.276	143.410	B	C-9	G		
280	-B	0.000	0.000	0.000	B	A-4	G		
281	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9	G		
282	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9	G		
283	13235	15.216	44.149	144.569	B	B-5	F		
284	14543	24.030	85.216	143.522	B	C-9	G		
285	8528	21.964	73.592	144.301	B	C-8	G		
	6673	25.656	85.042	143.000	B	C-9			
286	8581	26.401	85.236	143.844	B	C-9	H		
	-B	0.000	0.000	0.000	B	N/C			
	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9			
287	40355	7.651	40.826	143.956	B	A-5	G		
288	1790	26.819	78.567	144.358	B	C-6	G		
	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-9			
289	13294	17.101	52.698	144.602	B	B-6	G		
290	796	25.630	86.843	144.056	B	C-9	H		
	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9			
291	14295	21.690	9.965	144.149	B	C-1	H		
292	1605	20.373	75.582	144.095	B	C-8	G		
293	14497	25.147	86.932	143.592	B	C-9	G		
294	39164	9.232	45.811	144.072	B	A-5	F		
	40367	8.736	41.071	144.017	B	A-5			
295	16676	24.455	87.883	143.457	B	C-9	H		
	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9			
296	1316	25.830	66.461	144.912	B	C-7	G		
297	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9	H		
298	38189	11.068	36.834	144.262	B	B-4	G		
	299	3935	21.523	81.390	143.760	B	C-9	H	
	-B	0.000	0.000	0.000	B	A,B-4,5			
300	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9	G		
301	-B	0.000	0.000	0.000	I	A-5	A		
302	5190	25.626	89.626	143.991	B	C-9	H		
303	1316	25.830	66.461	144.912	B	C-7	G		
304	15992	21.591	84.489	143.268	B	C-9	G		
305	39160	10.849	46.438	144.259	B	B-5	FX		
306	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-9	G		
307	-B	0.000	0.000	0.000	I	C-2	H		
308	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-3	H		
309	5967	25.356	73.885	144.534	B	C-6	G		
310	3977	21.350	80.306	143.784	B	C-9	G		
	311	14453	21.212	91.652	143.443	B	C-10	G	
312	8083	26.611	93.822	146.191	B	C-10	H		
	8266	27.477	94.246	146.200	B	C-10			
313	-B	0.000	0.000	0.000	B	C-10			
314	-B	0.000	0.000	0.000	B	B-9	H		
315	-B	0.000	0.000	0.000	B	AB-4	G		
316	5127	22.966	19.809	144.362	B	C-2	G		
	7619	20.337	19.337	144.340	B	C-2			
317	2560	27.165	80.239	144.278	B	C-9	G		
	318	-B	0.000	0.000	B	C-2	H		
319	5979	24.467	73.181	144.551	B	C-6	H		
320	-B	0.000	0.000	0.000	I	C-3	H		
321	19108	23.715	87.059	143.300	B	C-9	G		
322	17613	16.660	16.147	144.145	B	B-2	D		
323	15576	19.924	83.103	143.199	B	B-9	G		
324	-B	0.000	0.000	0.000	B	A,B-4	G		
325	7396	23.838	18.979	144.325	B	C-2	H		
	7397	23.835	18.926	144.324	B	C-2			

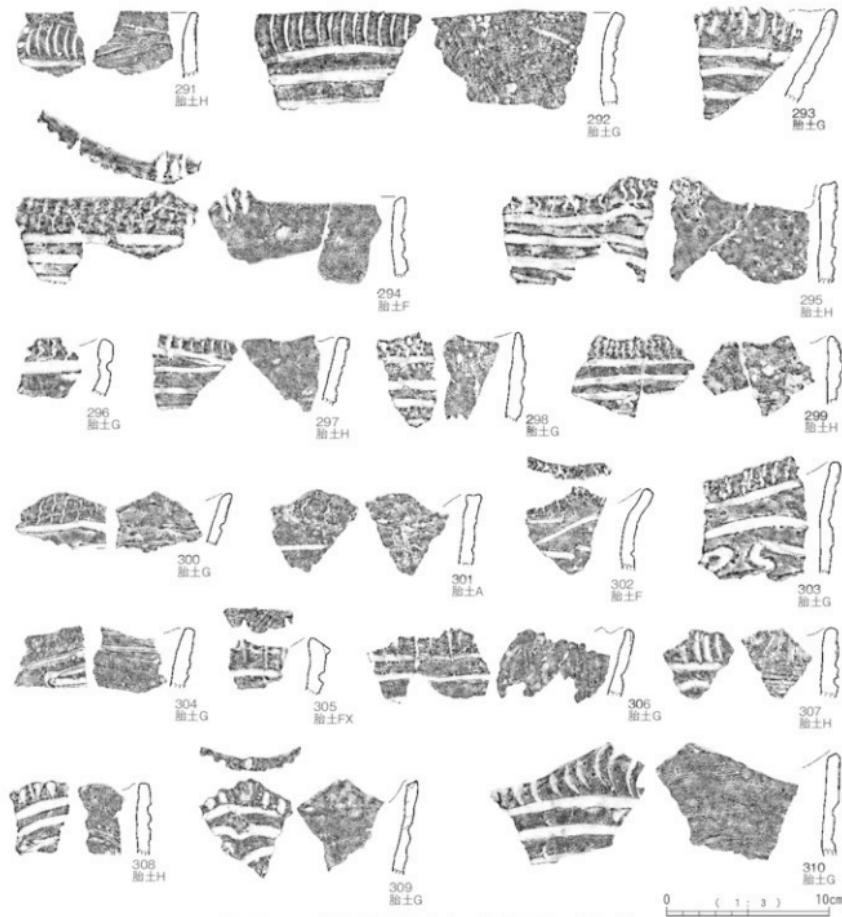


第65図 7 A類土器実測図 (15) 【本数不明_二枚貝】

305は口唇部にも刻みが施される。306は施文帯の沈線と同じ工具で口縁部にC字状の刺突が施される。307の波頂部は指で平坦に押さえられる。309は波頂部前面に

円文が施される。310は斜めに深いC字状の刻みが施される。

311は口縁部にヘラナデ痕がよくみられる。312の沈線

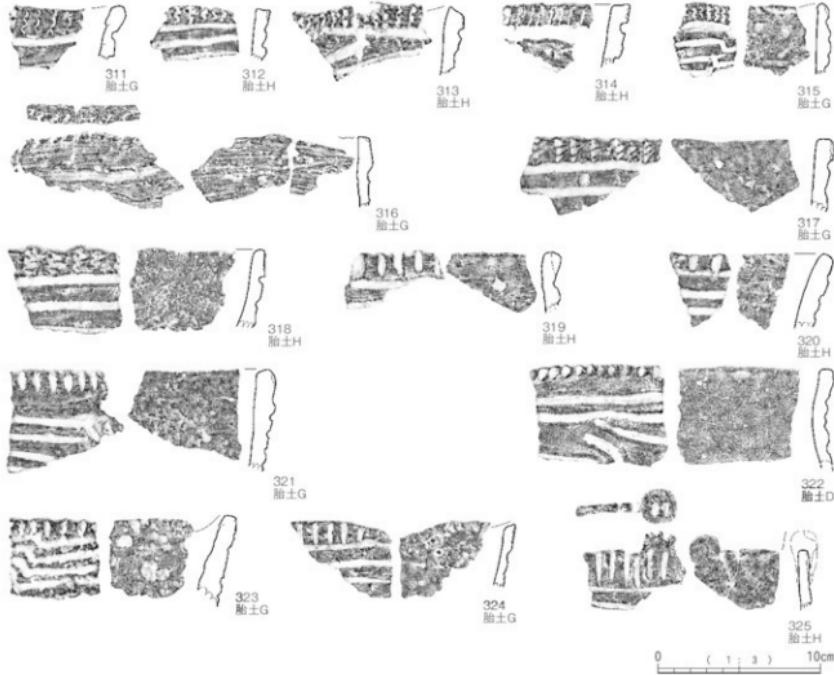


第66図 7 A類土器実測図 (16) 【本数不明_二枚貝2】

文は深い刻みが先行し、313では先行する二枚貝刺突が沈線文で断ち切られる。314の口縁部は肥厚し、沈線文は深い刻みが先行し、315は内外面とも丁寧に撫でられる。316は口縁部端部に刻みが施される。317は深い刻みが左から右へ進行し、318にはススが残る。319は肥厚する口縁部に深い刻みが施されており、棒状工具の使用を想定できる。320の口縁部も若干肥厚する。321は施文の起点に蒲鉾状の粘土帯の整形がみられる。322は器面が丁寧に撫でられている。323は沈線文が先行する。324は器壁が薄く胎土に大粒の凝灰岩粒を含む。325は粘土紐を内外面に貼付け、口縁部と同様に縱方向の短沈線で刻

みが施される。

326は若干肥厚する口縁部に右横方向から刺突が施されている。327は横2段、329は凹点文状に仕上げられたもので、沈線文は明瞭である。330の口縁部は外反する。331は内面に輪積み痕を残す。332も狭い口縁部に深い刺突を施す。333は半截竹管状工具を使用する。334の口縁部は狭く、深い沈線文が施されている。沈線内にはススが付着する。335は輪積み痕が残る。336, 337は狭い口縁部を形成する。338は半截竹管状工具を使用する。339も半截竹管状工具を右下から斜めに刺突し、同一工具で沈線文を周回施文する。340では口縁部端部に刻みを施



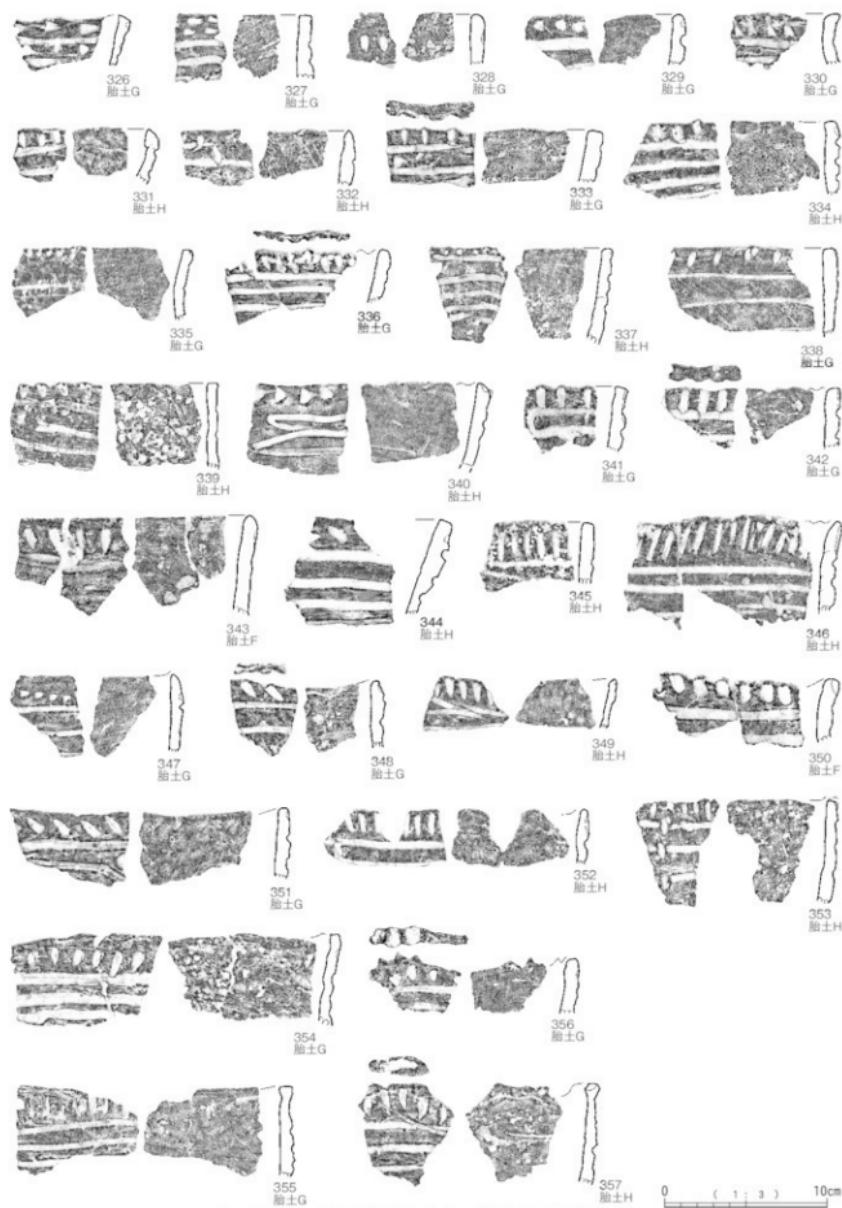
第67図 7 A類土器実測図 (17) 【本数不明_二枚具】

第25表 7類土器観察表 (10)

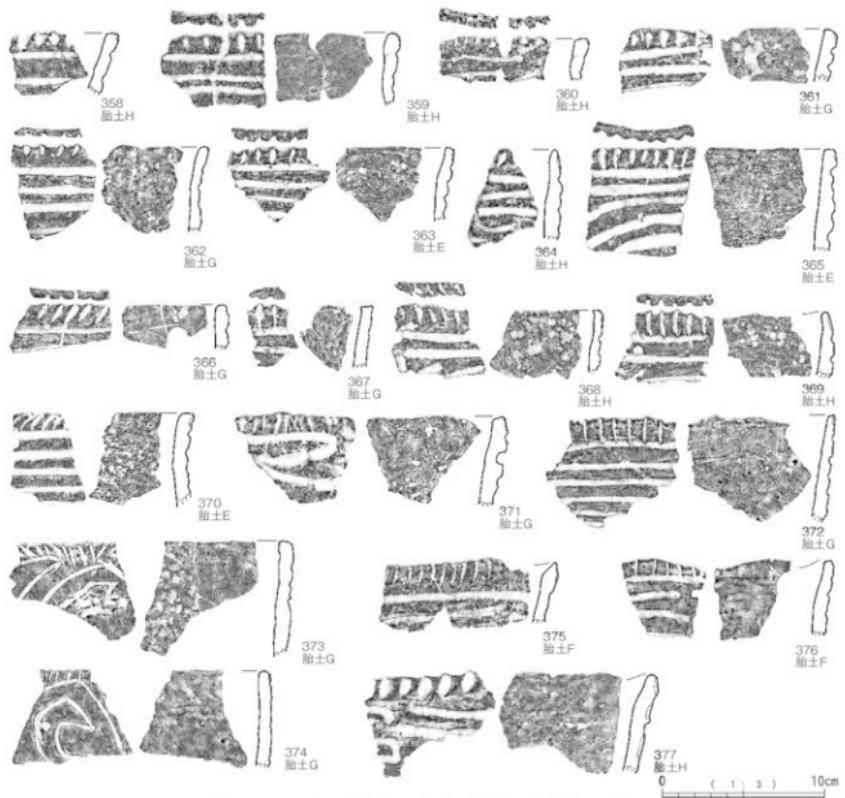
測定No	通No	上土No	X座標	Y座標	Z座標	位置	クリップ	脱土	備考
326	6680	26.330	82.722	143.897	Ⅲ	C-9	G		
327	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-2	G		
328	1761	25.946	79.088	144.218	Ⅲ	C-8	G		
329	18010	10.867	171.214	143.567	Ⅲ	B-2	G		
330	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-10	G		
331	9487	23.010	77.575	143.997	Ⅲ	C-8	H		
332	18159	16.849	16.671	143.996	Ⅲ	B-2	H		
333	18916	17.966	88.308	143.009	Ⅲ	B-9	G		
334	15973	12.099	15.446	143.734	Ⅲ	B-2	H		
335	6306	24.567	79.396	144.128	Ⅲ	C-8	G		
336	15653	25.190	87.799	143.542	Ⅲ	C-9	G		
337	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-9	G		
338	4080	23.508	18.410	144.491	Ⅲ	C-2	G		
339	17420	19.384	16.271	144.432	Ⅲ	B-2	H		
340	20862	25.826	92.446	143.472	Ⅲ	C-10	H		
341	39004	10.484	39.894	144.264	Ⅲ	B-4	G		
342	一見	0.000	0.000	0.000	I	B-10	G		
343	6678	22.842	80.189	143.918	Ⅲ	C-9	F		
344	8003	20.727	88.942	143.194	Ⅲ	C-9	H		
345	16962	23.820	78.745	143.663	Ⅲ	C-8	H		
346	11398	18.893	87.067	142.877	Ⅲ	B-9	H		
347	一見	0.000	0.000	0.000	I	C-10	G		
348	一見	0.000	0.000	0.000	I	B-9	G		
349	一見	0.000	0.000	0.000	I	B-9	H		
350	40102	10.502	39.719	144.219	Ⅲ	B-4	F		
351	17705	18.720	85.227	143.030	Ⅲ	B-9	G		

第26表 7類土器観察表 (11)

測定No	通No	上土No	X座標	Y座標	Z座標	位置	クリップ	脱土	備考
352	一見	0.000	0.000	0.000	III	C-9	H		
353	12692	18.557	79.946	144.449	III	B-2	H		
354	18260	19.716	88.089	143.139	III	B-9	G		
355	14629	12.535	15.575	143.840	III	B-2	G		
356	15076	12.579	15.304	143.809	III	B-2	G		
357	9303	22.164	81.849	143.718	III	C-9	G		
358	19625	23.584	84.076	143.386	III	C-9	H		
359	一見	0.000	0.000	0.000	III	B-9	H		
360	39033	11.729	40.791	144.309	III	B-5	H		
361	一見	0.000	0.000	0.000	III	C-9	G		
362	一見	0.000	0.000	0.000	III	C-3	G		
363	10747	24.516	85.264	143.796	III	C-9	E		
364	一見	0.000	0.000	0.000	III	C-6	H		
365	2215	19.863	75.584	144.003	III	B-5	E		
366	17868	21.243	90.081	143.237	III	C-10	G		
367	一見	0.000	0.000	0.000	I	B-9	G		
368	14913	24.143	87.008	143.596	III	C-9	H		
369	8613	26.667	84.597	143.689	III	C-9	H		
370	一見	0.000	0.000	0.000	-	-	E		
371	10212	22.999	21.567	144.734	III	C-3	G		
372	8817	23.422	74.122	144.017	III	C-6	G		
373	14446	22.711	91.506	143.510	III	C-10	G		
374	11235	24.079	77.501	144.184	III	C-8	G		
375	6666	26.672	82.647	144.011	III	C-9	F		
376	5927	24.563	75.916	144.426	III	C-8	F		
377	14480	25.189	88.566	143.566	III	C-9	H		



第68図 7 A類土器実測図 (18) 【本数不明 半截竹管】



第69図 7 A類土器実器図 (19) 【本数不明_筐状工具】

している。343はきめの細かい胎土で、石英粒、角閃石等が含まれる。344は胎土に径10mm程の岩礫を含む。345は口縁部施文帯が広めに形成される。346は半截竹管状工具を使用し、緩やかな波状口縁部に右上から左斜め方向に刺突する。胎土はきめの細かいもので薄い肌色に発色している。347は凹点文状に施文する。348は右下から口唇部に斜め方向に刺突する。349の口縁部は肥厚し、器壁の薄い資料であるが、器形の復元は難しい。350は施文を凹点文状に施したものである。351は左上から右下に刺突を施す。352.353.354は半截竹管状工具を使用する。355の胎土等は346に酷似する。356は鶏冠状突起が、357は台形状突起部が作出され、上面には沈線が施される。

358.359は類似する。360の沈線文は間隔を置いて施されている。361.362の沈線も全て口縁部に沿って並走する。363の沈線内にはススが残る。364には施文に曲

線文が組み合わされている。365は肥厚した口縁部にC字状の刻みを連続的に施したもので、沈線文も密に施される。胎土は微細な石英粒を多く含み特徴的である。366.367.368の刻みは鋭い。369の刻みは沈線文に先行する。370は安定した平坦な口唇部で、沈線文も並走する。371の沈線文は、起点を深く刺突する。372は観察できる6本の沈線文が全て口縁部に沿って並走する。373の曲線文は鉤形文の組み合わせの可能性もある。374は373とは口縁部刻みの方向が異なるが、それ以外の多くの特徴が類似する。375の口唇内部は外に尖り、胎土は微細な石英粒を多く含む砂質のもので、器面はザラザラした質感を呈する。376の沈線文は間隔を置いて施される。377は波状口縁で、ヘラ状工具を横位に深く刻む。そのため口縁部は鋸歯状の仕上がりをなし、下位の深くて明瞭な沈線文と対をなす。胎土は大粒の凝灰岩粒や長石粒を含むもので、硬質の仕上がりとなる。

7B類2本並行沈線文

口縁部から頸部、胴部上部に、沈線文2本で施文した土器である。

378は並走する沈線文は同時に施文された可能性が高いが、短沈線文を繋ぎ合わせて描いていることが交換点から推測できる。379は硬質の小型鉢形土器で、器壁は薄い。380の口唇部は内に傾き、周回する沈線文の特徴や焼成は381と酷似する。内面上位はナデにより仕上げられる。381も口唇部が内に傾き、周回する沈線文の特徴や焼成は380と酷似する。胎土には微細な石英粒が含まれる。382の口唇部は内に傾き、周回する沈線文の特徴や焼成も380,381と酷似し、内面上位はナデにより仕上げられる。胎土には微細な石英粒が含まれる。383は丸みを持つ口唇部で、内面の輪積み痕が明瞭に観察でき、施文は並走する2本の沈線文を主にして部分的に鉤形文や屈曲文を描く。384は口唇部が内に傾き、周回する沈線文の特徴や焼成も382と酷似する。内面上位はナデにより仕上げられる。胎土には微細な石英粒が含まれる。385は筋条痕の明瞭な施文具を用い、やや浅い沈線文となる。386は器壁が厚く、胴では更に厚くなる。口唇部は平坦面をなし、胴部の屈曲点では粘土の纏方向の絞りが確認できる。胎土は大粒の凝灰岩粒や長石粒、角閃石等を含むものを使用している。387は筋条痕の明瞭な施文具でやや浅い沈線文を施す。388は肥厚した口縁部施文帯をもつ。389の器面は両面とも丁寧に撫でられ、赤褐色に発色した器面は光沢を保ち、点在する白色の凝灰岩粒が特徴的である。390は大粒の凝灰岩粒を含む胎土である。391は現存状況から沈線文2本と判断したもので、口唇部は丸く肥厚する。392は波頂部の明かり窓で破損し、波頂部上面には連続して刻みが施される。394は並走する沈線文は同時に施文された可能性が高いが、短沈線文を繋ぎ合わせて描いていることが交換点から推測できる。395は双角状突起の上面から前面を二枚貝で刻み、

第27表 7類土器觀察表 (12)

体印No.	地印No.	X座標	Y座標	Z座標	層位	グリッド	胎土	備考
378	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	G	
379	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	G	
380	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	B-9	G	
381	17745	17.139	83.949	142.743	Ⅲ	B-9	G	
382	148019	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	H	
383	6094	21.647	78.128	143.890	Ⅲ	C-8		
	6095	21.588	78.134	143.874	Ⅲ	C-8		
	6096	21.575	78.157	143.876	Ⅲ	C-8		
	17796	19.169	81.994	143.000	Ⅲ	B-9		
384	19051	21.264	87.550	143.289	Ⅲ	C-9	E	
385	40198	10.209	41.582	144.221	Ⅲ	B-5	G	
386	14143	24.200	62.664	143.740	Ⅲ	C-9	H	
387	9755	25.313	33.009	144.679	Ⅲ	C-4	H	
388	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-10	H	
389	14447	21.949	91.796	143.536	Ⅲ	C-10	G	
390	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-8	G	
391	-	0.000	0.000	0.000	Ⅲ	C-9	H	
392	14916	16.136	12.960	143.969	Ⅲ	B-2	G	
393	17429	19.559	16.047	144.263	Ⅲ	B-2	H	
394	13750	16.248	79.015	143.306	Ⅲ	B-6	H	
395	19468	24.327	87.253	143.278	Ⅲ	C-9	H	
396	5045	21.784	19.792	144.248	Ⅲ	C-2	H	
	5120	23.115	19.296	144.418	Ⅲ	C-2	H	
397	16664	19.807	83.000	143.176	Ⅲ	B-9	H	



第70図 7B類土器分布図 (1)



第71図 7B類土器実測図（1）【2本並行沈線文】

内側に焼成前の未貫通の回転穿孔痕を残す。396は波頂部に粘土紐を貼り付け、波頂部を起点に施される部を起点に施文しており、口唇部は平坦面をなす。397

は波頂部に粘土紐を貼り付け、波頂部を起点に施される中央のS字の変形文が施文展開の境界となっている。

7B類3本並行沈線文

口縁部から頸部、胴部上部に、沈線文3本で施文した土器である。

398は復元口径24cmで外面は条痕調整の後に直接沈線文を施す。内面はヘラナデにより仕上げられる。399は復元口径20.4cmで、沈線の始点と終点は高さを違え、口唇部の刺み方向も同じ位置で高さを違えている。内面のヘラナデは丁寧に繰り返し施されている。400の内面は条痕で仕上げられている。2本目と3本目の沈線は矩形の変形の可能性がある。401は復元口径19cmで最大径は胴部にある。特に薄い器壁をなすもので、外面は丁寧に撫でられているが内面は明瞭な条痕が残されている。口唇部には狭い平坦面が形成され、沈線文は棒状工具で浅く4~5cm程の短沈線を繰り返し繋ぎ合わせて施されている。胎土は砂粒と角閃石を多量に含む。402は復元口径28.2cmで、口縁部は緩やかな波状を呈する。外面は丁寧なナデにより仕上げられているが、内面には輪積み痕がそのまま残る。403は復元口径25.9cmの深鉢形土器で、口縁部がわずかに内側にそぼまる。口唇部の上面では、製作時に口唇部外側に粘土板を貼り足した痕跡が観察できる。並走する3本の沈線文は直結することなく10mm未満の間隔で施されており、文様が6~7区画に区分される。施文帯の限定された狭い範囲が丁寧なナデにより仕上げられている。内面上位は指頭によるナデ、それ以下はヘラナデ調整で調整が施され、胎土には大粒の凝灰岩粒や長石粒が多数含まれる。

404は復元口径14.6cmの小型鉢形土器で、縦2段、横2列の凹線文を挟んで区画文を形成し、短沈線を繰り返し繋ぎ合わせた3本の並走沈線文で文様を構成する。なお口唇部はS字状とC字状の二枚貝剥突文が交互に配される。施文帯を中心にはスカーフが付着する。405は復元口径32.5cmで口縁部は直行する。4か所の波頂部を備えるが施文は口縁部に集中し、波頂部を中心とする施文構成がみられる。資料からは3本の明瞭な並走沈線文が施され、波頂部下位では2本目と3本目の沈線文間に菱形状の区画が設けられた可能性がある。器面は施文帯と内面上部を丁寧に撫でられるが、特に内面下部には粗い条痕がそのまま残される。なお、胎土には多量の大粒の凝灰岩粒を含み、条痕仕上げの段階では凝灰岩粒が器面に露出している。また、外面上位にはススも残る。概ね頑丈な作りとなっている資料である。406は復元口径23.5cmで、平坦な口唇部にねじり紐を貼付け、その間の2か所に狭い隙間が残される。なお、ねじり紐の貼付けは、最大5か所とみられる。薄手硬質な焼成で、胴部最大径と口径がほぼ一致する。並走する3本の沈線文は鉤彫文をなし、器面はヘラナデ後に指で絞め押さえられるが、内面は粗い仕上げで輪積み痕がそのまま残される。また、胴部表面があばた状に激しく剥落する。407は復元口径23.5cm、高さ22cmの深鉢形土器で、総じて器壁は厚く、製作時から胴部下位でひしゃげていたとみられる。4か所の山



第72図 7B類土器分布図(2)